

造影剤（ガドリニウム製剤）を用いたMRI検査に関する説明書

1. 今回実施する造影MRI検査は「造影剤」という薬剤を注射で使用して行います。造影剤を用いることにより病気の状態をより正確に把握し、的確な治療をすることができます。造影剤を使用しなくてもMRI検査を行うことはできますが、一部の疾患では造影剤を使用しないと正しい診断ができず、見落とす場合もあります。

2. 造影剤（ガドリニウム製剤）の危険性・合併症、合併症が起きた場合の対応

造影剤は概して安全な薬剤ですが、まれに副作用が起こることもあります。副作用には次のようなものがあります。

- 1) 軽い副作用：吐き気、動悸（どうき）、頭痛、かゆみ、発疹などで基本的に治療を必要としません。このような副作用の起こる確率は100人に1人（1%）です。
- 2) 重い副作用：呼吸困難、意識障害、血圧低下などです。通常治療が必要で、重症の場合は後遺症が残る可能性があります。入院や手術が必要となることもあります。重い副作用の起こる確率は1万人に5人以下（0.05%以下）です。
- 3) 病状、体質によっては約100万人に1人の割合（0.0001%以下）で死亡する場合があります。

3. 造影剤を注射するときには

- 1) 体が熱くなることがありますが、直接の刺激であり心配はいりません。
- 2) 勢いよく造影剤を注入するために血管外に造影剤がもれることがあります。この場合には注射した部位がはれて、痛みをともなったり赤くなることがあります。基本的に時間がたてば吸収され、心配はありません。もれた量が非常に多い場合には別の処置が必要となることがありますが、まれです。

4. なお、患者さまで

- 1) 本人または血縁者に喘息やアレルギー体質の人がいる
- 2) 以前造影剤使用で気分を悪くしたことがある
- 3) 重い腎臓の病気がある
- 4) 糖尿病の薬を服用している
- 5) その他の危険因子がある

などの場合には、副作用の出現する確率が高くなることもあります。

万一副作用が起こった場合に備えて万全の体制を整えています。もし異常を感じたら、ためらわず、すぐに主治医もしくは放射線科(内線3210)までご連絡下さい。

【連絡先】

〒272-8516 千葉県市川市国府台1-7-1
国立健康危機管理研究機構 国立国府台医療センター
放射線科（担当医：待鳥 詔洋）
電話（代表）：047（372）3501